

藻場造成技術を用いた ブルーカーボン造成試験



令和6年10月

知名町役場 企画振興課 ゼロカーボン推進室

目的

- ▶ カーボンニュートラルの達成に向け、活用に限界があるグリーンカーボンだけでなく、藻場の再生によるブルーカーボンの創出技術検討を行う。
- ▶ 磯焼けにより減少したホンダワラを再生することで、水質の浄化・生物多様性の維持・海岸線の保全への寄与を期待する。



概要

- ▶ 知名漁港において、海藻用の施肥材(鉄分供給ユニット)を沈設させる。
- ▶ 沈設前後の水質及び藻(ホンダワラ)の定着状況を調査し、評価を行う。

- ▶ 試験期間
令和6年10月21日～
令和7年3月31日
※沈設期間とは異なる



知名漁港航空図

施肥材(ビバリーユニット)について

ビバリーユニットは海藻類の生育に必要な「鉄イオン」を腐植酸鉄の形で海に供給し、藻場の造成を助ける、まさに海藻のためのサプリメントです。森林土壌中の「鉄イオン」と「腐植酸」がキレート化※することで生み出される腐植酸鉄を、転炉系製鋼スラグと人工腐植土の副産物を利用して人工的に生成し、供給することで藻場の造成を助けます。

ビバリー®ユニット

転炉系製鋼スラグ(Fe^{2+})



鉄イオンを多く含み、炭酸ガス等で安定化処理したアルカリ溶出が少ないものです

人工腐植土(腐植酸)



※: キレートとは、ギリシャ語でカニのハサミのこと。カニがハサミで物を挟むような形で金属と錯結合する物質のことです。キレート化した金属は生物に吸収されやすくなります。